

表1 看護学科設置から現在までの経緯

年月	出来事	講座	教授	助教授	講師
平成6年10月	最初の予定教官として赴任	哲学倫理学	南澤汎美		
平成7年4月	医学部看護学科設置	看護学科	南澤汎美	奥村百合恵	
平成8年4月		人間科学・基礎看護学	長崎絃明 坪井良子	奥村百合恵 佐藤みつ子	高田谷久美子
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子	石川操 渡邊タミ子	森千鶴
		地域・老人看護学	南澤汎美		
平成9年4月		人間科学・基礎看護学	長崎絃明 坪井良子	奥村百合恵 佐藤みつ子	高田谷久美子
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子 福澤等	石川操 渡邊タミ子	森千鶴
		地域・老人看護学	南澤汎美 飯島純夫 山岸春江		山崎洋子
平成10年2月16日	長崎絃明教授御逝去				
平成10年4月		人間科学・基礎看護学	坪井良子	奥村百合恵 佐藤みつ子	高田谷久美子
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子 福澤等 大山建司	石川操 渡邊タミ子	森千鶴 伊達久美子
		地域・老人看護学	南澤汎美 飯島純夫 山岸春江		山崎洋子
平成11年3月	第1回看護学科卒業式				
平成11年4月	修士課程看護学専攻設置 (看護学修士)	人間科学・基礎看護学	坪井良子 小森貞嘉	奥村百合恵 佐藤みつ子 高田谷久美子	
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子 福澤等 大山建司	石川操 渡邊タミ子 森千鶴	伊達久美子
		地域・老人看護学	南澤汎美 飯島純夫 山岸春江		山崎洋子
平成11年12月15日	南澤汎美教授御逝去				
平成12年4月		人間科学・基礎看護学	坪井良子 小森貞嘉 佐藤みつ子	高田谷久美子	白鳥さつき
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子 福澤等 大山建司	石川操 渡邊タミ子 森千鶴	伊達久美子
		地域・老人看護学	飯島純夫 山岸春江		山崎洋子
平成12年11月	看護学科主任 坪井良子				
平成13年3月	福澤等教授定年退官	人間科学・基礎看護学	坪井良子 小森貞嘉 佐藤みつ子	高田谷久美子	白鳥さつき
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子 大山建司 森千鶴	渡邊タミ子 柳原真知子 梶原睦子	伊達久美子
		地域・老人看護学	飯島純夫 山岸春江		山崎洋子
平成13年4月		人間科学・基礎看護学	坪井良子 小森貞嘉 佐藤みつ子	高田谷久美子	白鳥さつき
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子 大山建司 森千鶴	渡邊タミ子 柳原真知子 梶原睦子	伊達久美子
		地域・老人看護学	飯島純夫 山岸春江		山崎洋子
平成14年4月	看護学科主任 西脇美春	人間科学・基礎看護学	坪井良子 佐藤みつ子	高田谷久美子	白鳥さつき
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子 大山建司 森千鶴	渡邊タミ子 柳原真知子 梶原睦子	伊達久美子
		地域・老人看護学	飯島純夫 山岸春江		山崎洋子
平成14年10月	山梨大学(統合) 看護学科長 山岸春江	人間科学・基礎看護学	坪井良子 佐藤みつ子	高田谷久美子	白鳥さつき
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子 大山建司 森千鶴	渡邊タミ子 柳原真知子 梶原睦子	伊達久美子
		地域・老人看護学	飯島純夫 山岸春江 新田静江		山崎洋子

平成15年4月	山梨大学大学院医学工学 総合研究部・教育部設置 博士課程ヒューマンヘルスケア学専攻 (看護学博士)	人間科学・ 基礎看護学	坪井良子 佐藤みつ子 田辺文憲 澤田愛子 高田谷久美子 (留学生センター)	白鳥さつき
		臨床看護学	西脇美春 中村美知子 大山建司 森千鶴 遠藤俊子	渡邊タミ子 柳原真知子 梶原睦子 伊達久美子
平成16年3月	西脇美春教授定年退官	地域・老人 看護学	飯島純夫 山岸春江 新田静江	山崎洋子
平成16年4月		人間科学・ 基礎看護学	坪井良子 佐藤みつ子 田辺文憲 澤田愛子 高田谷久美子 (留学生センター)	白鳥さつき
		臨床看護学	中村美知子 大山建司 遠藤俊子	渡邊タミ子 梶原睦子 伊達久美子 水野恵理子 小林康江
		地域・老人 看護学	飯島純夫 山岸春江 新田静江 土屋紀子	山崎洋子
平成17年4月	看護学科長 大山建司	人間科学・ 基礎看護学	坪井良子 佐藤みつ子 田辺文憲 澤田愛子 高田谷久美子 (留学生センター)	
		臨床看護学	中村美知子 大山建司 遠藤俊子	渡邊タミ子 森本悦子 伊達久美子 水野恵理子 小林康江
平成18年3月	坪井良子教授定年退官 山岸春江教授定年退官	地域・老人 看護学	飯島純夫 山岸春江 新田静江 土屋紀子	山崎洋子
平成18年4月		人間科学・ 基礎看護学	佐藤みつ子 田辺文憲 高田谷久美子 (留学生センター)	佐藤都也子
		臨床看護学	中村美知子 大山建司 遠藤俊子	森本悦子 石川眞里子 水野恵理子 小林康江 福井里美
平成19年3月	土屋紀子教授定年退官	地域・老人 看護学	飯島純夫 新田静江 土屋紀子	山崎洋子

(平成19年3月31日現在)

てできた看護系の大学院です。本大学院は、ケアの受け手と提供者双方の意向に即した質的に高い看護サービスを提供できる看護専門職や教育・研究者を育てることを目的とし、昼夜開講で、社会人が仕事に従事しながら就学することを可能としました。看護学専攻の教育・研究領域は基礎看護学、臨床看護学、母子看護学、地域看護学、高齢者看護学となっており、修業年限2年、学位：修士(看護学)を取得できます。

平成12年5月に旧山梨大学と山梨医科大学は統合推進に関する合意書に調印し、国立大学として最初の統合に向けて動き出し、平成14年10月に統合して、新“山梨大学”が開学しました。平成15年4月に大学院医学工学総合研究部・教育部が設置され、看護学に関しては、医学工学融合領域にヒューマンヘルスケア学専攻が置かれました。入学定員4名、修業年限3年、学位：博士(看護学)を取得することになりました。看護学科設置以来の念願であった博士(看護学)の取得が可能となり、平成18年3月には最初の卒業生を出し、看護学に置いて最高レベルの教育・研究を行うための組織が完成しました。ヒューマンヘルスケア学専攻は、看護学専攻修了者ばかりではなく、教育学専攻修了者も受け入れ、人間を身体・心理・社会的側面から包括的に捉え、21世紀の小児から壮年期の人々が心身ともに健全で、やがて豊かな高齢期を過ごすことができるような看護方法・教育活動・福祉政策のあり方について探求する人材の育成を目的としています。医学部看護学科および大学院の初年度の入学志願者、入学者数を表2に示します。ここ1-2年は修士課程の定員確保が難しい状況が続いており、大学院のあり方に関する発想の転換が求められる時期に来ていると考えます。

国際交流としては、平成12年7月にはボロマラ

表2 初年度入学試験の概要

	入学試験実施日	受験者数	合格者数	入学者数
看護学科1期生	平成7年4月15日	181	63	61
大学院修士課程1期生	平成11年4月9日	24	19	18
大学院博士課程1期生	平成15年4月5日	10	5	5

ジョナニ ナパラートバジラ看護大学(タイ王国)と学术交流協定を結び、その後定期的な教官の交流を行い、タイの教官からは看護学科教官、学生、病院看護師等がタイ式マッサージの講習を受け、さらに共同研究も進められています。

2. 看護学会の設立から現在までの経過

吉田洋二学長(山梨医科大学)の提案で山梨医科大学看護学会を設立しようということになり、第1回設立準備委員会を平成11年12月9日に開催しました。設立準備委員会のメンバーは坪井良子、大山建司、森千鶴、高田谷久美子、山崎洋子(以上看護学科)、向井要子、樋口順子、井上貴美(以上看護部)8名です。委員長は坪井教授、事務局長は大山で準備を進めることになりました。吉田学長にも出席いただき、1、会則 2、会員資格、会費 3、学術集会開催、学術集会長 4、学会誌の発行について協議を重ね、4回の会議の結果、会長は吉田学長、副会長は大村久米子看護部長、坪井良子教授、事務局長 大山建司、設立委員が学会の役員を分担する体制で総会を開くこととなりました。第1回学術集会を平成12年9月23日に臨床大講堂で開催し、学術集会長は坪井良子教授にお願いしました。学術集会に先立ち、山梨医科大学看護学会設立総会を開催し、正式に山梨医科大学看護学会が設立されました。会員数404名、看護部、看護学科教官の全員が会員となりました。会員の年会費は5000円、学生会員3000円(平成19年より一律3000円)としました。その後大学の統合により学長が会長とな

表3 看護師・保健師・助産師国家試験合格者数

実施年	看護師	保健師	助産師
平成11年	57/57	62/67	
平成12年	62/62	67/75	
平成13年	51/52	66/68	
平成14年	63/64	67/74	
平成15年	58/58	69/74	
平成16年	60/60	74/75	6/6
平成17年	60/61	67/72	5/5
平成18年	53/53	53/67	3/3
平成19年	55/56	78/78	4/4
合計	519/523	603/650	18/18

合格者/受験者

表4 山梨大学看護学会 (旧山梨医科大学看護学会)

期間	歴代会長	
平成12年9月23日-平成14年11月16日	吉田洋二(学長)	山梨医科大学看護学会
平成14年11月16日-平成17年3月	山岸春江(学科長)	山梨大学看護学会(統合により改名)
平成17年4月-平成18年3月	大村久米子(看護部長)	
平成18年4月-現在	大山建司(学科長)	
歴代学術集会長		
第1回(平成12年9月23日)	坪井良子(人間科学・基礎看護学)	
第2回(平成13年)	山岸春江(地域・老人看護学)	
第3回(平成14年)	西脇美春(臨床看護学)	
第4回(平成15年)	佐藤みつ子(人間科学・基礎看護学)	
第5回(平成16年)	中村美知子(臨床看護学)	
第6回(平成17年)	大村久米子(看護部長)	
第7回(平成18年)	新田静江(地域・老人看護学)	
歴代会誌編集委員長		
1巻1号-2巻2号	森千鶴(臨床看護学)	平成14年12月26日初巻発行
3巻1号-4巻2号	飯島純夫(地域・老人看護学)	
5巻1号-現在	佐藤みつ子(人間科学・基礎看護学)	

ることが出来なくなったため、学会名を山梨大学看護学会と改め、会長は看護学科長・看護部長の中から役員会で推薦し、総会の承認を得ると規約を改正し、平成14年11月から山岸春江学科長が会長に就任しました。その間学会誌発行を森千鶴教授(編集委員長)を中心に検討し、年2巻発行することとなり、平成14年12月26日に第1巻1号を発行しました。学会の事業として、学術集会の開催、特別講演会、新任教授講演会、学会誌発行を行っています。会長、学術集会長、編集委員長歴任者を表4に示します。

最後に、看護学科設置の先頭に立ってご尽力くださった人間科学・基礎看護学教授長崎紘明先生が平成10年2月16日に、地域・老人看護学教授南澤汎美先生が平成11年12月15日にご逝去されたのは、看護学科12年の歴史の中で最も悲しい出来事です。看護学科創成期の最も多難な時期をなんとか乗り切り、現在の看護学科を築いてこられたのは、両先生の人徳と指導力に負うところが極めて大きかったと思います。

平成19年は看護学科開学と同じ亥年です。12年が経過し、本学の卒業生が本学の教員となり、また他大学や臨床の現場、地域医療等に活躍しはじめ

ています。これらの人たちの活躍が本学のさらなる発展につながり、ひいては看護学の向上に寄与できるならば南澤・長崎両先生のご恩にも報いられるものと考えています。

この記録は平成19年3月31日迄をまとめたものです。